

2007 年能登半島地震余震観測に参加して

機器開発班（上宝観測所） 和田博夫

2007 年は、近年稀な余震観測に出動する機会が多くあった年であった。3月の能登半島地震、7月の新潟県中越沖地震である。ここでは能登半島地震の余震観測に参加した報告を行う。新潟県中越沖地震については別報告で述べる。

3月25日09時41分にM=6.9(JMA)の地震が、能登半島西岸輪島市門前町付近で発生した。上宝でも震度Ⅲを記録した。今回の能登半島地震が発生した震源域は、従来上宝観測所の定常観測点があり、これまでに能登半島の地震活動について報告しているところである。特に今回の震源域周辺では、1993年には珠洲沖にてM=6.6(JMA)の能登半島沖地震は発生して、多くの余震が発生した。現在も時々その余震の発生はみられる。1997年、1998年には富来沖にて群発地震が発生しており、また、2000年には石川県西方沖にて多くの余震をともなった地震が発生、2004年には能登半島北西沖で発生するなど比較的地震活動の活発な場所である。(図1)

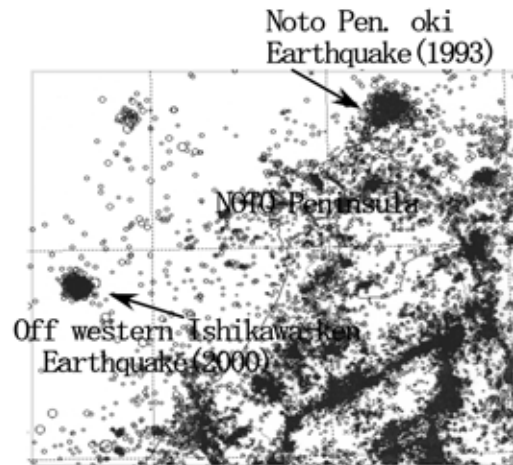


図1 定常観測網のデータによる能登半島周辺の震央分布

本震が発生した翌日26日から、地震予知研究センターでは余震観測に出かけた。26日夕方に、前線基地として決めた羽咋市の国民休暇村能登千里浜に集合した。メンバーは、西上助教授（役職は当時）、宮沢助手、平野技術室長、野田、西辻、土井、片木諸君と私の8名であった。翌日27日から輪島市門前町周辺で臨時観測点の設置を行った。28日までに設置した観測点は、鹿磯、菅の原、大久保、大沢、中野屋、栃木、猿橋、鍛冶屋、高根尾、鑓川の10点である。(図2) 最初に設置したのは鹿磯観測点である。訓練のつもりで参加者全員でセットした。地震計はL-4C-3D(Mark Products製)固有周期1秒、3成分一体型を、収録にはLS7000XT及びLS7000(白山工業製)を用い、200Hzサンプリングで、2GBのCFカードに、自動車用バッテリー2個を用いて収録を行った。最初の観測点をやっとなら立ち上げて、遅い昼食を済ませて次の観測点へ向かった。翌日データチェックの為、この観測点へ再び出かけて唖然とした。というのは、前日昼食を済ませた場所の1、2m先に、直径3mはあろうかと思われる大岩が、居座っていました。この現象が昨日だったらと思うと冷や汗ができました。近くの山腹から落ちてきたそうです。データチェックを躊躇しましたが、回りの山から落石がないことを祈りながら、ロガーのチェックを行ったのは今でも記憶に焼きついています。今回の観測は現地収録方式で行った為、その後約2週間に一

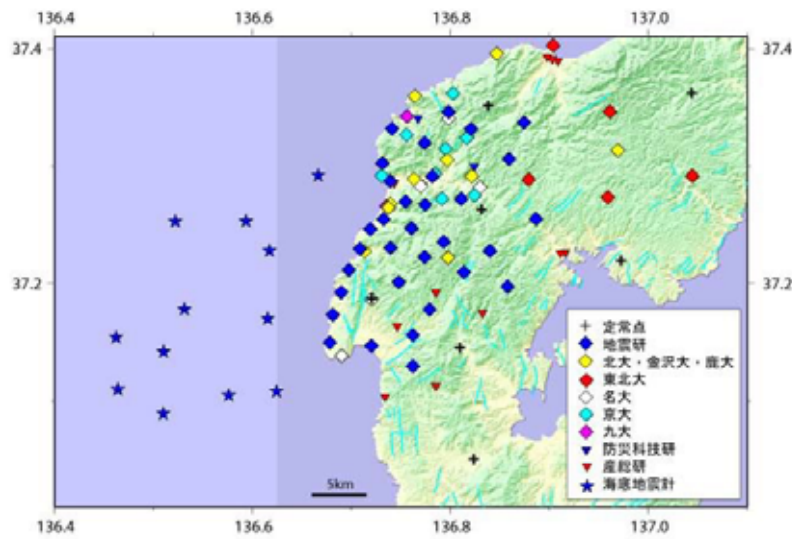


図2 能登半島地震臨時観測点分布(東大地震研HPより)

度データ回収(CFカード交換)とバッテリー交換を行うこととなった。3回のデータ回収の後、5月14日に4点の撤収を行い、5月31日に伊藤先生と平野さんと3人で残り6点を撤収して今回の臨時観測は終了した。今回の観測中空き時間を利用して、被災現場も視察すること

が出来た。その写真を掲載して参加報告とする。(写真1, 2)



写真1 落石により通行止めとなっている。



写真2 地震により倒壊した製材所